

「どんな役でも喜び、楽しむ心」



東新町第四自治会長 福森 辰明

私が自治会活動に初めて参加したのは、およそ40年前。自治会が「東新町北自治会」と呼ばれた頃、故宇佐美正二郎氏が会長で、私は何も分からず手伝いをさせてもらいました。この頃に町別でソフトボールチームを作り他町のチームとリーグ戦を楽しみ、他チームの人たちとの親睦を深めることができたことは良い思い出に残っています。

以来、消防団員、PTA会長、保護司、神社委員等・・・、自治会が合併し「東新町第四自治会」になり2倍の規模に、副会長時代は組長を免除してもらっていましたが、この時初めて組長になり家族皆で協力し合いこの役を1年間務めました。そして現在に至り、自治会長歴が10年を超えてしまい、振り返ると多種多様な役を務めてきました。どんな役でも喜んでやれば楽しい思い出になります。皆さんもぜひ自治会活動にご参加、ご協力をお願いします。

「近未来を少しでも想像してみませんか」

京町西自治会長 亀井 正明

「最近街燈が消えっぱなしでいつなおるんや、それとごみの集積所が最近はいっつもグチャグチャやけど ドーなっとるんや？」「近頃回覧板がぜんぜん回ってこんけどドーなっとるんや、それに最近は何んのイベントも無いし、橋北もさびしなったなー、その上あっちゃこっちゃ雑草だらけになって人が住んどらん街みたいになってきたなー」。「最近あそこの人がなんや困っとるらしいけど、誰に相談したらエエか分からんちゆうて困っとるみたいやで〜」。「ほんまに自治会が無くなってからこの街はサッパリになってしもたなあ、自治会があったころは自治会費も有ってめんどくさいと思っただけど有った時の方がよかったなあ」。「そやけど、ここ迄来たら自治会をもっかい作るちゅうのは無理やと思うよ」。「あ〜ア、アンタもやっぱりそう思うかあ〜」。

これは決して架空の話ではありません、現実



「記念号に寄せて」



四日市市役所 市民生活部長 森 祐子

橋北地区連合自治会ニュース13周年記念号の発行、おめでとうございます。今回20年にわたる自治会を始めとした住民の皆さんのまちづくりの歴史を振り返ることは、とても意義深いことだと思います。

私は市の広報に携わった経験から、情報提供の難しさと大切さをよく知っています。印刷物の場合紙面には限りがあり、伝えたいことをきちんと表すのは簡単でない上、情報を伝える速度は今流行のSNSには及びません。けれど、その時々





連合自治会ニュース

記念号

2023年12月

橋北地区連合自治会発行

記念号発行にあたり

連合自治会長 山内 満

平成22年（2010年）に発行開始以来13年が経過し、連合自治会や地域の歩みと共に振り返り、特集を組みました。

橋北地区連合自治会ニュースは、H22年発行から13年経ちました。地区の皆様の協力により紙面も充実し、各自治会長の意見交換の場にもなっています。

東西橋北連合自治会がH15年に統合し、幾多の議論を重ねながら、H25年東西橋北小学校の統合を果たし、一方施設跡地利用では、将来の橋北地区を見据えた子育ての複合的施設としてH29年「橋北交流会館」を開設させました。施設の内容は、1・2階が幼稚園と保育園を統合し「橋北こども園」としました。児童館は機能を見直し、4階「こども子育て交流プラザ」とし、地区外も含め20万人以上の方に利用していただいています。また、今年から「幼児教育センター」が3階に開設され、私立、公立の垣根を越えた幼保の先生の研修を行っています。

H18年度（H19年2月）国の認可を受けて近鉄線川原町駅高架事業がスタート。駅周辺の環境整備事業として滝川公園は「防災公園」になり、地域住民の皆様の安心・安全、災害に強いまちづくりの拠点となっています。さらに、H23年頃から高齢化により空き家が増えて管理ができない等の苦情があり、当時の総合まちづくり部会（須崎晏宣東新町第一自治会長）が中心になって空き家調査を実施し市に要望、後の「四日市市空き家条例」（H26 年施行）につなげたのは地区として大いに誇れるものでありました。これらの事業は、H20年スタートの「橋北地区都市計画マスタープラン」に沿って進めてまいりました。

橋北地区連合自治会ニュースは、町づくりに関して、その時々

平成22年12月号より

●「地区社協が新体制でスタート」
●「京町に在宅介護サービスセンターができる」

平成27年3月号より

●「近鉄高架工事下り線開通」
●「台風11号の特別警報発令、指定避難所に62人避難」



連合自治会ニュース

平成 23 年度に向かって

連合自治会長 花村 誠

師走に入り、ひとしお寒さを感じる朝夕、暖房が欲しい今日このごろです。

平成 22 年は内外に於いて、色々な出来事が目まぐるしく動いた年でした。私ども連合自治会では、主要課題は皆様のご協力でかなり成果をあげつつあることを心より感謝申し上げます。

来年はどんな年になるだろうか。そんななかで、

○地区社協と新地域社会づくり委員会が統合することにより、地区社協が新体制で発足され、連合自治会も尚一層の連携が必要とされます（2 2 年 1 1 月中旬に各種団体で意見集約して、1 2 月 9 日の社協理事会で説明されました。）

○かねて地域の皆様から要望が強くありました、在宅介護サービスセンターが、地区内の京町に実現する運びになりそうです。橋北地区の活性化にも大きく反映されるものと思います。

○東西小学校の統合問題は、都市マスタープランと合わせて、町づくりの重要なプロセスでもあり、連合自治会では市行政にボールを投げてありますので、返球を見極めて早々に全力で取り組む所存です。皆様のご理解と尚一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

過去の紙面から抜粋

連合自治会ニュース

橋北地区連合自治会長 山内 満

自治会の結束でさらなる地域の活性化を

この1年、連合自治会

ここ20年の橋北の歩み

平成15年 新生 橋北地区連合自治会活動開始

平成15年 新生 社協スタート

平成25年 橋北小学校 開校

平成27年 近鉄線 高架化完成

平成29年 橋北交流会館オープン



「自治会と私の歩み」 花村 誠
(平成15年～平成22年 連合自治会長)



私の会長年度は、三重県自連、四日市市自連、地元の橋北連合自治会に於いても、**変革、多難な時期**でした。

平成14年は東西連合自治会の統合を成し遂げ、翌年、平成15年に連合自治会の町割り、戸数の見直しを行い、東西の社協が統合されました。

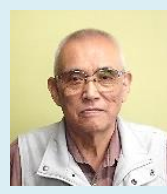
平成17年、18年は四日市市連合自治会の会長を務めさせていただきました。

平成19年は、全国大会で、四日市市で初めての**受賞の栄誉**に浴しました。

平成29年7月、四日市市市制120年記念式典で、**市政功労者の表彰**を授与されました。ひとえに皆様のご指導とご協力のおかげと心より感謝申し上げます。

これからは、少子高齢化が進み、IT革命は想像もできない進歩をするでしょう。でも、我が橋北の**人の心や文化の美しさ**は、そんなに変わらないと思います。いずれにいたしましても、地域活性のまちづくりは、都市計画マスタープランと合わせて重要なプロセスとして「**活動の基盤**」となるのはやはり自治会であります。皆様から愛される自治会に発展することを祈念します。

「まちづくりと共に」 伊藤和義
(平成23年 連合自治会長)



平成16年に滝川町第三自治会の会長として、地区デビュー致しました。以降10数年、橋北地区自治会活動に携わり、**地区の特性や事情を知る**ことが出来ました。海蔵川と三滝川、および東は海岸、西は近鉄線に囲まれた地域であること。万古焼の工場や店舗で栄えた地域が、マンションや住宅が増えることで、**生活が大きく変わろうとしている時期**だと感じました。

連合自治会の会議などにて「**安全で安心して暮らせるまちづくり**」の要望が多く、課題ごとの推進部会が発足し、年代や役職を超えたメンバーによる地区まちづくり委員会と行政担当者との合同にて「橋北地区まちづくり構想書」を作り上げ、平成20年には「**都市計画マスタープラン**」として認定されました。

認定された事業ごとに、プロジェクトチームが結成され活動できた事は、良い経験だったと感謝しています。特に思い出深い事柄としまして、

◎**デルタ地域での防災対策**・・・組織の強化と避難所備品の充実について

◎**少子化での東西小学校統合**・・・平成25年4月開校と跡地利用について

◎**交通対策での近鉄線高架事業**・・・平成30年開通と駅周辺整備について 等であります。

今後も、**社会情勢や地域事情に合わせた取り組み**が必要です。住民参加で頑張りましょう。よろしくお願い申し上げます。

各町自治会長から この10年の思い

「単位自治会長を拝命し、20年来の地域の変節に接して思うこと」

滝川町第二自治会長 皆川 克久

現況、日本中が**人口減少**が大きな問題になっているが、かつては我々の地域でも小学校が2校あり、橋北中学生は1学年、7クラス優に350人以上の生徒数の時代があった。現況は1学年30名前後。地域全体が縮小した現況環境で、自治会組織も東・西の連合自治会が組織統一し今日に至っている。

しかし、この地域は、万古焼の地場産業を支え、一帯となる永い歴史が存在しているからか、何かあると**地域活動・貢献体制は健在で、まとものある地域の伝統**が存在すると感じる。

地域は縮小しても、この地域性を今後も大事にしたいと思います。



「限界を超えて」



滝川町第三自治会長 川村泰士

昭和・平成・令和の時代を生き、84歳半ばとなりました。

自治会への参画は、50歳代(昭和48年頃)地区子ども育成会会長に就任、球技大会・野外活動(キャンプ)・研修旅行(遊園地)等、**その時代に対応した子ども育成**に携わりました。

その後も随時、町及び連合自治会活動に携わり、町内の環境美化活動で、ゴミ出しマナーの改善を図り市内ワースト5から**ベスト3に評価を上げ**ました。また、**滝川公園が憩いの場**となるように季節の花等を植え込み、保守管理してまいりました。

平成25年より自治会会長就任し今年が11年目。運動会、納涼大会、文化祭、防災訓練等、連合自治会、社会福祉協議会、防災組織連絡協議会、各種団体等で開催される行事が住民の高齢化、子どもの減少、コロナ感染症の影響等で参画者が減少しつつある。しかし、住民同士の交流が疎遠とならぬよう、**その時代に即応した活気のある町づくりに参画**したい。気力、体力共に限界か、ご期待に添えるか不安です。

「自治会長歴10年を振り返って」

東新町第一自治会長 伊藤 勝

平成25年4月1日、前自治会長から大役を引継ぎ会長職に就きました。当初1期3年までと決めて引き受けましたが、既に4期目に入っております。地域の皆様の温かいご支援やご協力でここまで続けて来れました。改めて感謝申し上げます。

さて、私たちの自治会の10年を振り返ってみますと、「**変化の10年**」と言っても過言ではありません。平成25年4月には、歴史と伝統のある東橋北小学校が廃校となり、西橋北小学校と統合して“橋北小学校”が新しく誕生しました。**慣れ親しんだ学校が無くなる寂しさ**はありました。しかし、平成29年4月にその跡地に子供中心の複合施設「橋北交流会館」がオープンしました。今では、**橋北こども園の園児達の元気な声**を聞いて癒されております。

自治会の変化は、バス旅行やバーベキュー大会等のイベントへの参加者が年々減少傾向にあったことです。特に長年実施してきたバス旅行等が、平成30年で途切れてしまったことは残念でした。又、運動会や盆踊り等**地域のイベントへの参加も年々少なくな**ってききました。

次にごみ分別方法の変更だと思います。平成28年4月から新しいゴミ分別方法になりました。それまでは、家庭内から出たラップ類、パック、プラスチック製の容器等は、燃やさないごみとして分別していましたが、4月以降は、生ごみと一緒に捨てるようになりました。このように家庭内での**分別が楽になり時間的に少し余裕**が出ました。

最後になりましたが、2020年から2023年5月まで、コロナウイルスによる経済活動や社会活動に制約があり、地域イベントや会議等が中止になったり、リモート会議となりました。5月以降、制約がなくなり今まで通りの活動が出来るようになりました。自治会活動も**通常の活動に戻**っていきたいと思っています。

